

県民とともにつくる 新県立図書館ワークショップ

開催結果vol.4: 第2部 浦和・オンライン会場(2022年10月15日(土)開催)

開催概要

埼玉県で「新埼玉県立図書館基本構想」の策定に向けて実施しているワークショップについて、10月15日(土)に第2部にあたる最終回を開催しました。テーマは「みんなで考えたミライの県立図書館はどんなもの？」で、浦和会場とオンライン会場をつなぐハイブリッド形式とし、浦和に13名、オンラインに5名、計18名の方に参加いただきました。

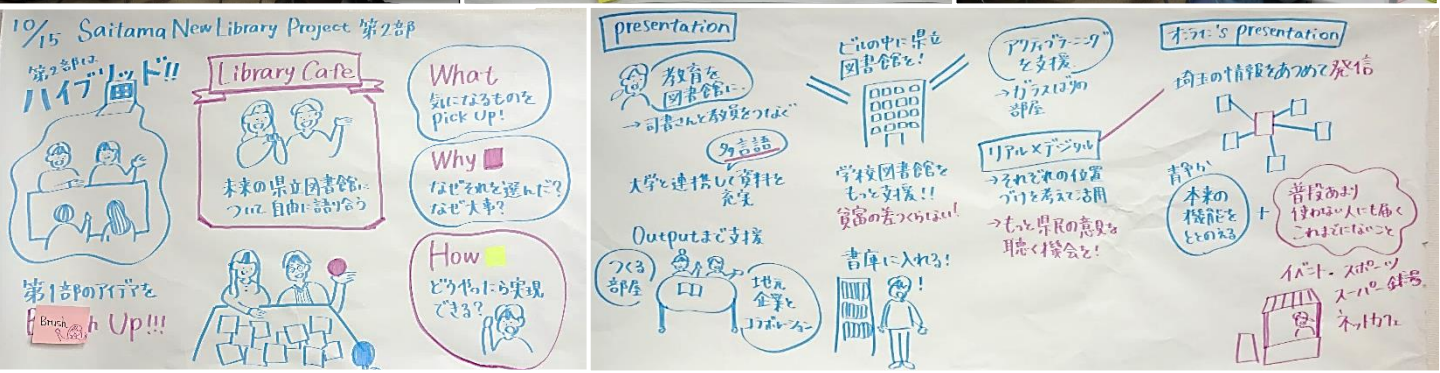
当日の流れ

はじめに、第1部で出た新県立図書館の使い方に関するアイデアを全体で振り返りました。そして、各会場に分かれて、新県立図書館に必要な機能・サービスをより具体化するため、ワールドカフェ形式(リラックスした雰囲気の中か少人数でメンバーをシャッフルしながら話しあう形式)のワークを行いました。

グループでの話し合いの途中で両会場の中継も挟みつつ、最後はグループ発表を通じて全体で結果を共有しました。併せて、当日の様子を記録したスクライビングやRTV(リアルタイムビデオ)を用いた活動の振り返りも行いました。

タイムテーブル

- 13:30~13:35 開会(挨拶)
- 13:35~13:45 第1部振り返り
- 13:45~15:15 ワークショップ(ワールドカフェ)
- 15:15~15:25 リフレクション
- 15:25~15:30 閉会



ワークの内容と結果

会場ごとに複数のグループに分かれ、第1部であげられた47個のアイデアから、特に掘り下げたいものとその理由（Why?）をメンバー同士が持ち寄りました。

そして、それらを実現するための方法・サービス等（How?）について、グループのメンバーを入れ替えながら話し合いを重ね、具体化しました。結果の一部を以下にご紹介します！

浦和会場
テーブル1

調べるだけでなく、その場で ディスカッションまで行える図書館

Why? : 学習効果が高まり、課題解決のための案が生まれやすい

How? : 学習スペース、ディスカッションできるスペース、気軽に話し始められる場を設置
専門家を紹介するマッチングアプリを導入
アウトプットまでを支援

浦和会場
テーブル2

実際のアイデアのアウトプットまで 支援できる図書館

Why? : インプットの間という側面が多いので、その先が見られると面白そう

How? : 企業や団体とコラボ/アドバイザーを配置
アクティブラーニング室を設置
閲覧室以外にもPC・ネットを整備
市民大学開催、成果の発表機会創出 など

浦和会場
テーブル3

県域全体に一括で電子書籍を提供するなど ICTが充実した学校図書館支援センター

Why? : 自治体格差が激しい状況で、学校図書館の支援も県立図書館の役割

How? : 今は個々にばらばらな図書館を支援
全国デジタル図書館を設置
運営チームを作って実現

浦和会場
テーブル4

リアルと仮想空間の図書館の双方の利点を 活用した図書館

Why? : リアルだけでは足りず、仮想空間だけだと利用者が限定されうる
利用者を呼び戻す県立ならではの発信が必要

How? : 双方のメリットを活かせる組合せ
デジタルアーカイブス構築
DXを実現するような場/開かれた場を創出

オンライン
ルーム1

地域・知識・旅・遊び・学び・趣味・音楽・医療 など、埼玉県のことなら全てわかる図書館

Why? : 県全体のことは県立図書館が取り組むしかない

How? : 国会図書館にしかないもの、リーフレット・ミニコミ誌など県内で発行したものも収集
専門的な司書がまんべんなく収集
市町村立図書館と役割分担

オンライン
ルーム2

文武両道(カルチャー&スポーツ施設 との複合化による)ハイブリッド図書館

Why? : 利用者拡大のため、様々な人が興味を持てる新しいメニューが必要

How? : 県立図書館ではないネーミング
他施設とのコラボ/24時間サービス
体を動かすことと資料や学びを結びイベント
自然や静寂の中の読書環境、丸一日どんな人でも過ごせる施設を整備

その他

各グループで掘り下げてみたいアイデアとして、以下なども選ばれました。

- アクティブラーニングを支援できる図書館 - 市町村立図書館のモデルになれる図書館
- 来館経験のない潜在的利用者をターゲットとする図書館
- その人にとって発見や知識に出会える図書館 - 埼玉県全体のコミュニティの拠点
- それぞれの人が好きな様に過ごせるような空間を持つ図書館 など



本ワークショップはすべて終了しました。ご参加いただいた皆さまありがとうございました。